

実習日：平成 28 年度第 I 期 6 月 29 日

実習先：大分三愛メディカルセンター

大学名・学年：九州保健福祉大学 5 年

氏名：武富光希

大分ゆふみ病院で実習をさせていただきました。独立型の緩和ケアでの医療について多くのことを学び、薬剤師としてどのようなケアができるのかを考えながら実習をおこなった。

病院という冷たいイメージとは違い、ゆふみ病院は暖かな雰囲気でした。照明の色や病室の内装も落ち着きがあり旅館のようでした。患者やその家族にも配慮されていることを実感しました。

カンファレンスなどを通して他職種の方からも学ばせていただきました。疼痛の管理をはじめバイタルサインは細かく情報を共有することが大切であることを学びました。また、一番緩和ケアで印象に残ったことは、患者、家族のサポートのみではなく遺族の方のサポートまで行うということです。その点が緩和ケアと一般的な医療と違うところだと感じました。

薬剤師の仕事として麻薬の管理や疼痛のコントロールの評価について学ばせていただきました。麻薬の授受のシュミレーションや疑似の服薬指導など体験型の学習ができました。痛みの感じ方は人それぞれであるのでその患者に応じたコントロールが必要であることを学びました。

この実習で緩和ケアのイメージが変わりました。まだ世の中の人には緩和ケアに冷たいイメージを持たれている方もいると思うのでそういう方に薬剤師として緩和ケアや麻薬の正しい知識などを広めるなどしていけたらいいと感じました。